

人共テ古文ゼロから満点講座▽第ゼロ講 読み方のキソ編

まず第①講ということで、古文を読んでいく上での超基本を教えてください。いわば、古文を現代語に訳す上での約束です！全部で十個ありますので、一つずつ見ていきましょう！

「ポイント① 筆者の息継ぎポイント、て？」

古文は、ダラダラ話が続いて、いつの間にか主語が変わって、「あれ、今何の話してるん？」ってなってしまうのが、よくある……

↓息継ぎポイントを見つけて、相づちをうつことが大事！それができれば、実はそんなにややこしい展開とかないことがわかる！

その息継ぎポイントが――

！(10回唱えよう！)

接続助詞の「を」「に」「が」「と」「ば」「ども」は、相づちをうつところ！
なので、「。」と考えて、そこで文をいったん切る。その次に

を補って読む！

そのときに、「で、誰が？」と主語を確認するのを忘れない！

※ただし、（ ）の下の「を」に「が」では切らない！これは格助詞でべつもの！

。 (けれど)

(例) 御供の人々もてなし騒ぐに
「お供の人々もてなそうと騒ぐ。けれど
君は「涼しきかたに」とて端近う寄り臥し、…
君は「涼しい方に」と言つて端近くで…」
(『木草物語』)

「ポイント②」と「などの処理」

一般的に、声に出して語られたセリフには、「」が付くが、心の中で思ったことや、ちよとした引用の場合は付かない。「と」「など」を見たら、そのすぐ上に（）を付けて、できれば（）も探しておく。また、「と」「など」の下に、「」などの語はよく省略されるので、補って読む。

（例）童は心も得ず、あるやうあらむとて、懷こころに入れて行きぬ。（『木草物語』）
「童は気付きもせず、『何かわけがあるのだろう』と思って、（手紙を）懷に入れて行った」

「ポイント③」体言

体言「名詞」は、英語でいう（）になれる唯一のことば。

↓「童待つ」は「童が待つ」or「童を待つ」になる

↓体言の下に助詞がなければ、「か」「を」を補って読む！
が、を

（例）この花二房とり給へるに「この花二房を摘みなさったときに」

「ポイント④」連体形の処理

連体形

（例）この老尼おいあまにささやきてうち実みたる（）も、……らうたげなり。

基本的に、語尾が「」の形になっているのは連体形！連体形は、「下に体言があるよー」という合図になっている形！

↓下に体言がなかったら、（）などを補って読む！

（訳）この老尼にささやいてほほえている様子も、……かわいらしい

「ポイント⑤係助詞の働き」

係助詞はメツチャよく出るので、役割を正確に覚える！

係助詞は（
係助詞！）

・係助詞は（

）でしゃべってる！というサイン

↓ 聞いてほしいところ } は、（ ）を使ってハッキリ目立つように表す！
主張したいところ

・強さのレベルは、何を使うかによって変わる

強いLv MAX 「↑絶対モードでしゃべってる！」

強いLv 強 「↑みんな聞いて！！」モード

強いLv 中 「↑ちょっと聞いて！」モード

・係助詞は、単に「強さレベル」を表す記号みたいなモノなので基本的には（ ）！

（例）花こそ咲け！ ↓ 「花こそ咲け！」じゃなくて「花が咲く」こと！

↓ 係助詞は（ ）の中に入れるとかして、（ ）として訳す！

・（ ）も変形させ、「ここまで強いぞ！」というサイン！ ↑これが係り結びの法則

「ぞ・なむ・や・が」 ↓ （「る形」） / 「こそ」 ↓ （語尾がほぼe・れの形！）

（例）我が身の隠れにけるに（こそ）ありけれ！ 我が身が隠れてしまったことであるなあ（『今昔物語集』）

「ポイント⑥係助詞「や」と「が」」

(例)花や咲く

花は ()
花は ()
花は ()

() 疑問 ↑ 花咲くの？

() 反語 ↑ 花咲くん？ いや咲かへんやろ！ っていう気持ち
() 詠嘆 ↑ 花が咲くんだなあ (和歌とかに使われる用法)

※反語の形(「とか、いや…ない」)

① 「…ほほ反語一択！」

(例)人の心、移らぬものは「人の心が変わらないものか、いや変わる」

② 「…ほほ反語！」

(例)「なにか」「なか」「いかでか」「いづれか」「たれか」

③ 「…推量むの(已) + や」

(例)「現在推量むの(已) + や」

() によく使われる。

() 反語！

「ポイント⑦係助詞を使った重要用法」

① 「こそー已然形、…」

(例)花こそ咲け、鳥は鳴かず。「花は咲くけれど、鳥は鳴かない」

② もぞ・もこそ…」

(例)雨もぞ降る「雨が降っては大変だ」

③ 係り結びの省略

(1) 「と」 + 係助詞 ↓ 「を補う。」

とぞ・となむ・とや・とか + ()
とこそ + ()

(2) 「に」 + 係助詞 ↓ 「を補う。」

にや + ()
にか + ()
にこそ + ()

「ポイント⑧文章がグッと読めるようになる二要素」

① 格助詞の「が」「の」

が・の + 動詞 ↓ 「が」「の」も、「」と訳す！ (70%ぐらい)
 (例) 花の咲く 「花が咲く」
 が・の + 名詞 ↓ 「が」「の」も、「」と訳す！ (80%ぐらい)
 (例) 梅が枝 「梅の枝」

② 連体形の下に体言がないケース ↑ ポイント④

「」 「」 「」 「」
 「」 「」 「」 「」
 などの体言を補って読む！
 (例) さらさらと鳴りたるもいとあはれなるに… 『木草物語』
 「さらさらと鳴っている」 (もとても風情が感じられる…)

「ポイント⑨ 反実仮想」

A
 () () ()
 () () ()
 ば B () ↓ 「」

(例) 道を知らましかば、迷はまし。
 「もし道を知っていたとしたら、迷わなかっただろうに」

ポイント⑩重要な接続助詞の用法

①「ば」の用法

①仮定条件…まだ起こっていない、起こるかもしれないこと

() + ば 「

(例) 雨降らば、もし雨が降るならば、

②確定条件…もうすでに確認されていること

() + ば 「

雨が降ると

(例) 雨降れば、

雨が降るので
雨が降るといつも

・古文において

未然形は (

() を表し、已然形やその下の助動詞、連用形の下に助動詞は () を表す！

②「もの」系

() () () () () () () () () ()

逆接 「

「

() (まれに順接もある)

(例) 女は、かねて心かはせるものから、… (『うつせ目』)

女は、以前から思いを交わしていたけれど、